

2023年度学校評価

		評価対象	A	B	C	D	スコア
楽しい学校	保護者	児童	64.8%	32.0%	3.2%	0.0%	96.8%
	児童	自分	58.7%	29.0%	8.4%	3.9%	87.7%
	教職員	児童	42.1%	57.9%	0.0%	0.0%	100.0%
知力の伸長	保護者	児童	52.0%	39.2%	6.4%	2.4%	91.2%
	児童	自分	47.4%	40.4%	10.3%	1.9%	87.8%
	教職員	児童	63.2%	36.8%	0.0%	0.0%	100.0%
体力の伸長	保護者	児童	36.0%	40.0%	18.4%	5.6%	76.0%
	児童	自分	65.4%	26.9%	5.8%	1.9%	92.3%
	教職員	児童	68.4%	26.3%	5.3%	0.0%	94.7%
心力の伸長	保護者	児童	39.2%	50.4%	6.4%	4.0%	89.6%
	児童	自分	43.6%	42.9%	9.0%	4.5%	86.5%
	教職員	児童	31.6%	36.8%	31.6%	0.0%	68.4%
友人関係	保護者	児童	42.4%	49.6%	7.2%	0.8%	92.0%
	児童	自分	56.4%	30.8%	9.6%	3.2%	87.2%
	教職員	児童	26.3%	68.4%	5.3%	0.0%	94.7%
挨拶	保護者	児童	32.8%	38.4%	23.2%	5.6%	71.2%
	児童	自分	37.2%	43.6%	15.4%	3.8%	80.8%
	教職員	児童	10.5%	31.6%	57.9%	0.0%	42.1%
早寝早起き	保護者	児童	32.8%	32.0%	28.0%	7.2%	64.8%
	児童	自分	34.0%	23.1%	21.8%	21.2%	57.1%
	教職員						
朝ごはん	保護者	児童	91.2%	7.2%	0.0%	1.6%	98.4%
	児童	自分	80.1%	13.5%	4.5%	1.9%	93.6%
	教職員						
授業外学習への取り組み	保護者	児童	43.2%	40.8%	12.8%	3.2%	84.0%
	児童	自分	47.4%	34.6%	15.4%	2.6%	82.1%
	教職員	児童	15.8%	63.2%	15.8%	5.3%	78.9%
家庭への情報発信	保護者	学校	51.2%	32.8%	12.0%	4.0%	84.0%
	児童						
	教職員	学校	57.9%	36.8%	5.3%	0.0%	94.7%
相談への真摯な対応	保護者	学校	64.0%	30.4%	3.2%	2.4%	94.4%
	児童						
	教職員	学校	73.7%	26.3%	0.0%	0.0%	100.0%
健康と安全を守る活動	保護者	学校	62.4%	31.2%	4.0%	2.4%	93.6%
	児童※	学校	70.5%	19.9%	7.7%	1.9%	90.4%
	教職員	学校	63.2%	31.6%	5.3%	0.0%	94.7%
施設設備と環境美化	保護者	学校	73.6%	23.2%	2.4%	0.8%	96.8%
	児童	学校	58.3%	31.4%	9.0%	1.3%	89.7%
	教職員	学校	52.6%	47.4%	0.0%	0.0%	100.0%
個への対応	保護者	学校	40.0%	39.2%	15.2%	5.6%	79.2%
	児童	先生	55.1%	26.3%	12.2%	6.4%	81.4%
	教職員	学校	36.8%	63.2%	0.0%	0.0%	100.0%
アフタースクール	保護者	学校	32.8%	40.8%	19.2%	7.2%	73.6%
	児童	学校	60.6%	27.1%	11.0%	1.3%	87.7%
	教職員						

※保護者、児童、教職員を対象に、各項目4段階の評価アンケートを実施した。

※上位2つの肯定的評価の合計を「スコア」と呼ぶこととし、主として保護者と児童のスコアについて述べる。

- ・「楽しい学校」について、保護者スコアが昨年比+4.7%と伸びた一方、児童スコアはダウンし、90%を下回った。最高学年が5年生となり、学習内容も人間関係も難しくなっていることが主要因と思われる。次年度はいよいよ6年生まで揃う中、「Fun」だけでなく、「Interesting」な「ワクワク」を創出していかなければならない。
- ・「体力の伸長」について、児童スコアが昨年比+6.1%と伸び、90%を上回った。取り組みが功を奏しており、継続していきたい。
- ・「友人関係」は保護者、児童ともに昨年比プラスとなり、保護者スコアは90%を上回った。多様性を認識した上で、所属する集団をよりよい方向に進めていくための人間関係づくり、コミュニケーションスキルをより一層高められるよう、指導を充実させたい。
- ・「心力の伸長」「挨拶」については、昨年同様、教職員スコアが保護者・児童スコアに対して大きく下回っている。保護者、児童、教職員の3者間に存在する、目標レベルの差異を埋められるよう、子ども達に「こうあるべき、こうあってほしい姿・目標」を示し、そこに向かって主体的に取り組めるような指導体制をとっていきたい。
- ・「個への対応」の保護者・児童スコアは昨年に引き続きさらにダウンした。それだけでなく、教職員スコア(100%)を大きく下回っている。一生懸命やっているつもりが家庭のニーズに答えられていないということで、この意識の乖離は大きな問題である。さまざまな「個」があり、「全体・集団」の中で「個」のニーズ全てを満たすことは困難だが、まずは「全体・集団」への指導の質を高め、同時に「個」へのアンテナをはって、できる限りきめ細かいサービスを提供し、児童・家庭に寄り添った対応となるよう努力を続けていく。